

第5学年 理科学習指導案

研究主題

「読み解く力」の育成 ～NIEの活用を通して～

1 単元名 「台風と天気の変化」（『新しい理科5』東京書籍）

2 単元の目標

雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて、天気の変化の仕方を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 【思・判・表】	主体的に取り組む態度 【主】
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解している。 ・天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。 ・天気の変化の仕方について、資料を基に得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化の仕方について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ・天気の変化の仕方について、得られた結果を資料を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化の仕方についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・天気の変化の仕方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

4 目指す児童像

必要な情報を読み取り、知識や経験と関連付けながら考え、分かりやすく伝えることのできる児童。

5 仮説

新聞を活用し様々な記事を読んだり、自分の考えを述べたり、書いたりする場を意図的に設定し、活動に取り組みさせることにより、「読み解く力」を身に付けることができるであろう。

6 指導観

(1) 単元について

本単元では、雲の動きや量と天気の変化を関連付けて考え、天気の変化の予想を基に、観察や調べ学習から得られた結果から問題解決をすることをねらいとしている。1学期には春の頃の天気の変化について学習し、2学期には主に台風の動きと天気の変化について学習する。

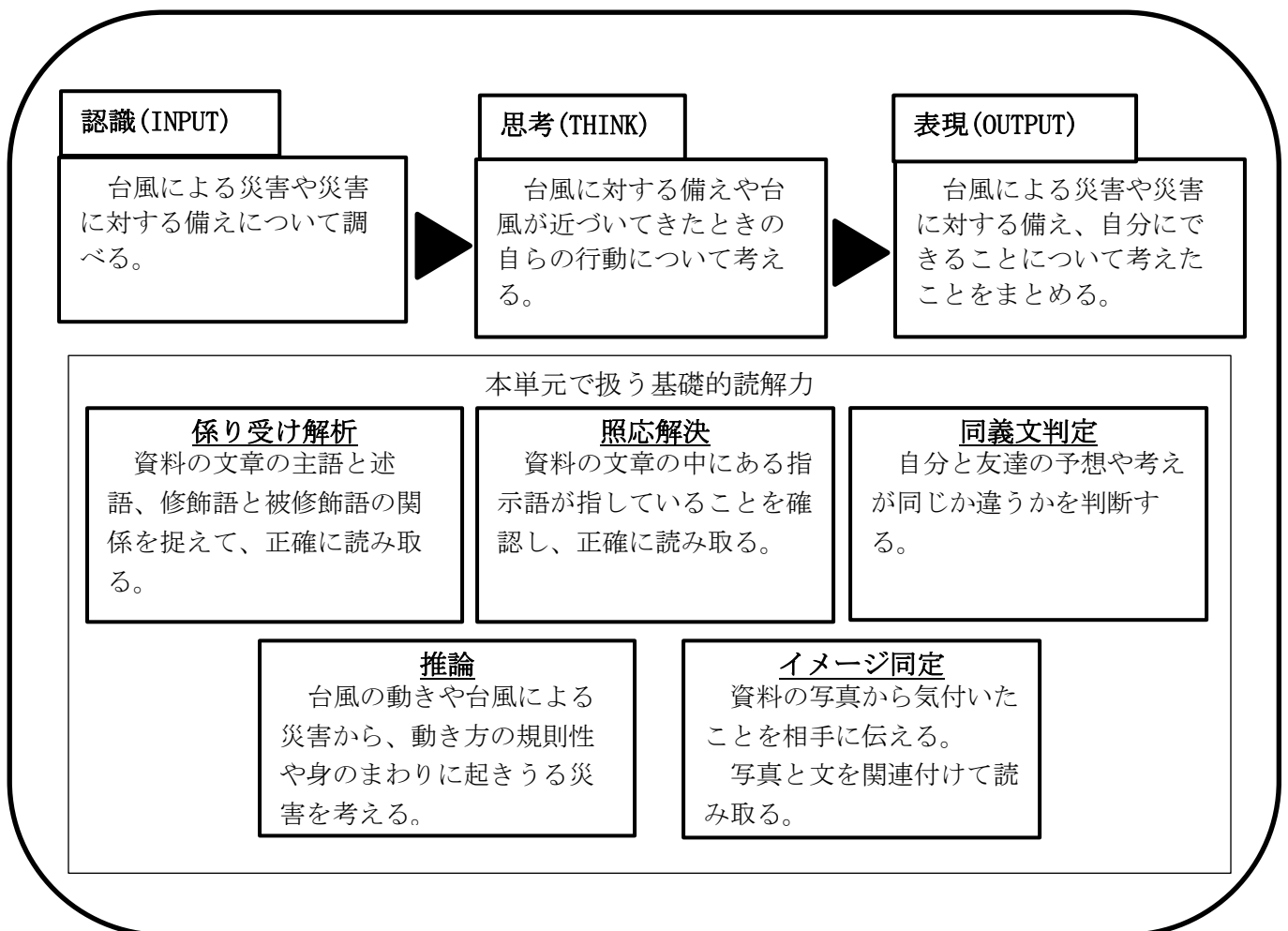
(2) 児童について

(3) 教材について

雲の動きと天気の変化の関係性を捉えさせる。また、季節によって天気の変化の仕方が変わることや、天気による災害を知り、天気の変化に対応するための工夫や自分にできる対策を考えさせる。自分の生活に生かしていくためにはどのような行動が必要なのかに気付かせる。

7 研究主題に迫るための手立て

(1) 「読み解く力」を身に付けるための指導の工夫



(2) NIEの活用

台風による災害について調べる際に新聞記事を利用する。最近の出来事を取り上げることで児童が興味、関心をもって取り組めるようにする。その際に、災害の被害にあったことのある児童がいる場合には配慮するようにする。

NIEタイムでは、グループごとに分担した新聞記事を読み取り、紹介する活動を行っている。友達に紹介するために新聞記事を読み取る必然性があり、主体的に取り組むことで読み解く力の育成を図っている。本時でも、台風に関する新聞記事を分担して、紹介し、まとめるという活動を入れている。伝える相手がいることで、要点を見付け、端的に表さなければならぬため、「読解力」と「表現力」を養えるのではないかと考える。

8 指導計画 (全4時間)

	時間	・主な学習活動	◆評価規準 ☆NIEの活用
① 台風の動きと天気の変化	1	・台風による天気の変化と災害について、これまでの経験や資料をもとに話し合う。 ・台風の進み方と天気の変化について予想し、話し合う。	◆思 台風の進み方と天気の変化について、自分の予想を根拠を基に表現している。
	2	・台風の進路と天気の変化についてまとめる。	◆知 資料を基に、台風の進み方と天気の変化について調べ、得られた結果を適切に記録している。 ◆知 日本付近での台風の進路や、台風が強い風や大量の雨をもたらすことについて理解している。
② わたしたちのくらしと災害	3 本時 ・ 4	・台風による災害や災害に対する備えについて、調べたり考えたりして、自分にできる防災を考える。	◆思 台風による災害や災害に対する備えについて調べた結果を基に考察し、災害に対して備えることの重要性を捉え、表現している。 ◆主 台風による災害や災害に対する備えについて調べる活動に進んで取り組み、友達と互いに考えを伝え合いながら、自らにできることを考えようとしているかを確認している。 ◆主 台風の進み方や天気の変化について学んだことを生かしながら、台風に対する備えや台風が近づいた時の自らの行動について考えようとしている。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

台風によってどのような被害がでるのかを調べ、全国各地で被害が起きていることを理解し、自分の身のまわりに起きうる災害に関心をもつ。

(2) 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ◆評価規準 ※読み解く力との関連 ◎準備物
導入	○前時までの学習を振り返る。 ○本時の学習内容を確認する。	□前時のノートを振り返られるようにする。
	これまで日本ではどこでどのような台風の被害があったか調べ、友達に伝えよう。	
展開	○これまで日本でどのような被害があったのか想起し、全体で交流する。 ・強い風で木や信号機が倒れる。 ・大雨で河川の氾濫や土砂崩れが起きる。 ○台風による河川の氾濫、土砂崩れ、洪水、倒木などの新聞記事から実際にあった被害を読み取り、いつ・どこで・どんなことがあったのかを付箋にまとめる。 ○グループで新聞記事から分かった被害を交流し、付箋をワークシートにまとめる。 ○ワークシートをもとに全体で台風の被害内容と被害のあった場所を確認する。	□台風によって強い風と大雨がもたらされることを確認しておく。 ◎新聞記事のスクラップ □どのような場所でどのような被害がでるのかに気付かせるようにする。(見方：時間的・空間的) □リード文を拡大して、読み取りやすくする。 ※係り受け解析・照応解決：新聞記事からいつどこでどんなことが起きたのかを読み取る。 ※イメージ同定：新聞記事の文章の内容と写真の内容を関連付けて読み取る。 □グループで共有し、考えを広げられるようにする。 ※同義文判定：新聞記事から読み取ったことを共有し、自分の認識と同じかどうか判断する。 ※推論：台風が直撃すれば日本中どこでも大きな被害が起きうるということは、自分の住んでいる地域でも起きうることを押さえる。(見方：時間的・空間的) ◆知 台風による災害について調べる活動に進んで取り組み、友達と互いに読み取ったことを伝え合いながら、協力してワークシートにまとめているかを評価する。
まとめ	○日本に来る台風の映像を見て、動き方とどの地域にも台風が来ることを確認する。 ○本時の学習内容をまとめる。 ・台風による川の氾濫や倒木などの災害は、日本中どこでも起きうる。 ○学習の成果を振り返る。 ○次時への見通しをもたせる。	□板書から自分の言葉で学習のまとめを書かせる。 □タブレットを用いることで学習の繋がりを意識させる。 ◆主 自分の身のまわりに起きうる災害に関心を持ち、災害を自分事として考えたふりかえりを書くことができる。

【授業を見る視点】

(1) 「読み解く力」を支える基礎的読解力を伸ばすための指導の工夫について

- ・ 新聞記事を読む目的を明確にしたことは、粘り強く文章を読むことにつながったか。
- ・ 児童の実態に合わせて新聞記事を加工したことは、読解力を伸ばすために効果的であったか。

(2) NIEの活用

新聞記事の選定はねらいを達成するための教材として適切だったか。